
純白の翼に光をのせて

白闇くろ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

純白の翼に光をのせて

【Nコード】

N6498F

【作者名】

白闇くろ

【あらすじ】

人間界より遙か上空にある世界《天空界》。其処に存在する大国、《天界》の姫君リンネ。彼女は国の後継ぎになる為、男として生きることを強いられる。政権争いの為に命を狙われ、逃げ続けるリンネの前に現れたのは、漆黒の翼を持つ《魔界》の王、アルクだった。白と黒、正反対の二人の出会い、果たして偶然か必然か——二人が紡ぐ、切ないラブファンタジー。

プロローグ（前書き）

まだまだ未熟で、至らない点もあるとは思いますが、
どうぞよろしくお願いします！

プロローグ

見回せばまわりは黒に埋め尽くされ、人々は口々に追悼の言葉を告げる。

何が何だか分からないまま連れ回され、可哀想にと憐れまれた。集まった人達の瞳には涙が溜まり、ぼろぼろと零れていく。

透明な雫は真っ白な床に冷たい影を落とした。

わたしももう、12歳だ。何が起きたかなんて、言われなくても分かってる。

皆と同じように涙を流さなきゃいけないこと等、知っていた。

でも、悲しくはなかった。

父が死んだと重々しく告げられようとも、『ああ、そうなんだ』としか思えない。

わたしには心がないのかと、そう思った時の方が余程悲しかった。涙を流せるのが、羨ましかった程。

けれど、違った。

わたしだけじゃなかったんだ。

だって、やがて涙が乾けば、人々からは“後継者”“次期王”そんな話ばかり口を突いて出てくる。

悲しんで見せたのはただのお芝居なんだと思わせる、その話。

心に響かない憐れみの言葉が、逆に痛かった。

父親が消えたなんて、彼等にしてみれば他人事。

所詮、その一言に尽きる世界。わたしだって、悲しくないと思地を張った。

——そうして、気付けば、お兄様もいなくなっていた。
次期王候補と呼ばれていた、第一王子のミカエル兄様も。
暗殺だとか自殺だとか囁かれたけれど、わたしにとってはどちらでも同じこと。

何を憎もうと、お兄様は帰ってこない。

関係ないことだと、どこか冷めた目で遠くから見ていた。

ただ、二人の死はわたしの運命を変えたということ。

それが、わたしの全てを狂わせたということ——。

どこからどこまでがはじまりで、どこからどこまでが終わりなのか？

それすら解らない、長い長い物語が動き出していた……。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6498f/>

純白の翼に光をのせて

2011年1月22日15時06分発行